

## 6.22 WEEKLY WRAP SCRIPT (日本語)

MARIANNE: 皆さん、こんにちは。さっそく株式市場を振り返ってみましょう。

それではABキャピタル証券株式会社のランスさんに今週の株式市場の報告をしていただきます。

MR. LANCE: さて、皆さん、おはようございます。先週の米国市場は、FRBが予定していた利下げの時期を2023年に変更したことで、主要な株価指数が低迷しました。そのため、FRBは2023年末までに政策金利を引き上げるとしています。また、フィリピンでは、政府がNCRの検疫措置を緩和したことを受けて、6月15日から6月30日まで、マニラの検疫措置を緩和することを決定しました。次ページ 4月の送金額は13%だったが、それは主にベース効果によるものにすぎない。次にIMFは、同国の成長見通しを6.9%から5.4%に隠しました。今年は、4月から5月にかけて、より厳しい監禁措置がとられたことが原因だとしています。また、観光産業のGDPへの貢献度は、2019年の12.8%から2020年には5.4%となり、少なくとも20年ぶりの低水準となりました。そして企業ニュースですが、ConvergeがFTSE renaissance IPO indexとFTSE ASEAN all share indexに採用され、次はInjapがMerry Martにロックアップされます。InjapはMerry Martの約60億株を保有しており、市場での取引が可能になりました。そして最後に、700億ペソ近くの上場候補が準備されています。FLIやRLC、Megaworldは今年中にREITの上場を目指しています。FLIは8月の第1週までに、RLCは9月の第3週までに、メガワールドはまだ発表されていませんが、それぞれREITのIPOを予定しています。そのため、週ベースでは、主に利益確定のために指数が57ポイント下がっています。また、外国為替取引については、2週連続の買い越しから、先週は売り越しが続きました。これは1億8,200万ペソで、これまでの純流出額は2,580億ペソとなっています。フィリピンの株式市場が外国人投資家の信頼を取り戻す可能性があるからで

す。この6月の1ヶ月間の外国人の純購入額は37億ペソです。これで1ヶ月間の純外国人買い越しは終了するはずで。これは、2019年10月以来の純外国人買いの月となります。これは主に、国内でのワクチン接種が改善されたことと、ワクチンの供給が改善されたことによるものだと考えています。ですから、政府は期待しています。

MR. LANCE: 先ほど申し上げたように、外国人投資家の信頼が高まっているのは、国内のワクチン展開期間が改善しているからだと考えています。ワクチンの供給に関して。政府は、6月に約1,100万回分、7月に約1,060万回分の納入を見込んでいます。さらに、政府はファイザー社から約4,000万本のワクチンを確保しています。このように、政府は今年、約1億1300万回分のワクチンを確保しています。その上、ワクチンの展開なども改善されています。その結果、フィリピンの株式市場は12%もの下落から巻き返すことができました。現在のところ、年初来で4%の下落にとどまっています。

2021年のPEの18.3倍という評価についても、フィリピン証券取引所の株価は、5年および10年の過去の平均的な評価の18倍から18.2倍に比べて割高になっています。しかし、繰り返しになりますが、2021年と2022年の市場の成長可能性を含めると国は、より大きな問題を抱える市場です。0.47は、市場がその成長性に対してまだ過小評価された状態で取引されていることを示しています。そして、次回のBSP会合は6月24日前後となります。エコノミストは、政策金利は過去最低の2%に据え置かれると予想しています。製造業PMIIは7月、インフレ率は7月6日となります。そして、私たちの市場の見通しについて。現在、心理的なサポートレベルである6800でのプルバックでの買いを提案しています。現在は6700円です。今のところ、指数は割高なバリュエーションで取引されているか、取引を維持していると考えています。先に述べたように、現在は過去の平均値よりも割高な水準で取引され

ています。しかし、繰り返しになりますが、国がワクチン展開を改善し、先ほど述べたように、国内のワクチン供給が改善していることから、市場はこの状態を維持すると考えています。

MR. IEMURA: チャートに戻ってください。この青い線は、移動平均線ですよね？赤いのが60日移動平均、青いのが200日移動平均ですね。

価格は超えて、大きくなっています。

MR. LANCE: 200日移動平均線は6600付近にあります。以上、マーケット・ラップアップでした。

MR. IEMURA: 業績予想について、少し説明してください。

MR. LEXTER: さて、第1四半期の概要を簡単にご説明します。これまでのところ、第1四半期は様々な要因が絡み合った結果となっています。約14社が予想を下回りましたが、残りの会社は予想通りあるいは予想を上回りました。そのため、今後数ヶ月の間に、特にロックダウンの可能性や対策の緩和などにより、業績の修正が行われるものと思われます。ですから、それは今後数ヶ月間にかかっていると思います。企業別に見ると、指数に含まれる30社の上場企業の間で、実際には様々なパフォーマンスが見られました。

MR. IEMURA: レクスターさん、パーセンテージの変化、例えば、SM9500でパーセンテージを5%に変更します。これは、昨年より5%増加しています。

MR. LEXTER: はい。

MR. IEMURA: 次の1つの予想です。これは年間を通しての3200万円が年間の予想収入です。オーケー、そして30%というのは、3200万円のうち30%をすでに何年も稼いでいるという意味です。続けてください。

MR. LEXTER: そして、これが30社の残りの半分です。一般的には、30社の今年の成長率は50%と予想されています。この50%という数字は、彼が実際に落ち込んでいたときに私が記録した低いベースの数字でもあります。2020年全体で55~57%と同じくらいの数字だと思います。

MR. LEXTER: これは2021年から2022年までの企業のスナップショットを示しているだけです。しかし、一般的には、2022年にはより強い成長が見込まれています。特に、今後数ヶ月の間にワクチンの展開が加速し始めるからです。毎日少なくとも20万人分のワクチンが投与されている論文によれば、2年以内に集団免疫を達成することができます。

MR. IEMURA: なるほど、15ページ目の2021年、ALI大躍進118.1%増ですか。これはアヤラランド？

MR. LEXTER: そう、118%の方です。

MR. IEMURA: なぜこのような利益が出るのか？

MR. LEXTER: それは、2020年のロックダウンのピーク時に、すべてのモールが閉鎖されたからです。オフィスも閉鎖され、一部のテナントの支払いも滞っていました。私たちの家賃の1〜2か月分は請求されなかったと思います。しかし、これはSMプライム・ホールディングスも同じだと思います。SMプライムとアヤラランドの違いは、SMプライムは小さなモールが多いこと。アヤラランドは非常に多様で、いくつかのオフィスや住宅用地まで持っています。

MR. IEMURA:なるほど、私のイメージでは、COVID-19ではSMが一番大きなダメージを受けています。

MR. LEXTER: その通りですが、2020年の間、アヤラランドに比べて大きな打撃を受けませんでした。というのも、アヤラランドには住宅部分があるからです。アヤラランドには住宅部分もあるので、実質的にこの期間の販売はほとんどありませんでした。

MR. IEMURA: オーケー、レジデンス。なるほど、なるほど。とにかく、アヤラランドのビッグジャンプと、ICTのこの国際コンテナ？

MR. LEXTER: ああ、そうですね。それはレイゾングループのものです。前年度は1件の支出がありました。しかし、総じて言えば、今年もICTはうまくいくでしょう。また、世界経済の回復にも期待しています。この会社は港湾事業者なので、どちらかというグローバルなプレーヤーです。

MR. IEMURA: DMC 88.9% 。DMCは、建設作業を後押しする。PMの意味は何ですか？

MR. LEXTER: PMエクイティとは、ブルームバーグでフィリピンの株式を表すコードに過ぎません。ブルームバーグでエンコードするとそのコードになります。

MR. IEMURA: ブルームバーグのコード

MR. LEXTER: また、MPI Pacificは128.5%のプラスとなりました。これは、彼らのインフラ構築が経済の回復によって促進されているためです。また、高速道路や病院などのインフラも充実しています。

MR. IEMURA: MPIは道路を管理していますよね。

MR. LEXTER: はい、その通りです。ルソン島の北部に多い、NLEXです。メトロ・パシフィックです。

MR. IEMURA: 彼らは道路から収入を得ているのですか？

MR. LEXTER: 高速道路を通過する車から通行料を取ります。

MR. IEMURA: ドライバーが支払わなければならない。都銀26.7%増。首都圏の銀行は、他の銀行よりも大きな増加率になります。その理由は何ですか？

MR. LEXTER:ここ数年は、引当金を多く計上していました。そのため、他の銀行に比べて不良債権が相対的に多かったのです。そのため、現在は、不良債権を減らし、信用損失を減らすことに努めています。そのため、今後数年間は、引当金が少なくなると予想しています。これは収益にとって良いことだと思います。

MR. IEMURA: MBTの方が純損失の引当金大きい？

MR. LEXTER: そう、BDの引当金は、損失の引当金大きい。今はそれを減らそうとしている。

MR. IEMURA: 引当金の額を減らすことができるのか？

MR. LEXTER: そうですね、最近のものはデフォルト率が高いので、クレジットカードの支払いができない人や償却が必要な人が多いです。ですから、クレジットプロフィールという点では、BDOやBPIIには及ばないのです。だから、今はそれを改善しようとしている。

MR. IEMURA: なるほど、支給額を減らすことができれば、それはプロフィット・インカムになる。

MR. LEXTER: はい。



MR. IEMURA: さて、私からは以上です。

MR. LEXTER: ありがとうございました。

MARIANNE: レクスターさん、家村さん、松下さん、本日はありがとうございました。以上、  
ABキャピタル証券株式会社の週刊株式市場総括でした。来週もよろしくお願いします。